

愛川ふれあいの村12月の風景

平成24年 12月 自然のたより

朝方になると霜が降り、シモバシラが氷の花を咲かせるほど寒くなりました。樹木は寒さから芽を守るため冬芽はさまざまな工夫を凝らして、早くも春の準備をしています。

<12月の自然のエピソード>

茶色い枯葉のじゅうたんの上で緑色のメジロの巣が見つかりました。どうやら風に吹かれて落ちたようです。メジロの巣は枯草や白いビニールひも、クモの巣で作られており、周りは保温効果のあるコケで覆われていました。

この時期、葉の落ちた木の上を見ると鳥の巣を見つけることができます。探してみませんか。



シモバシラの「氷の花」



落ちていたメジロの巣



周りを見渡しているシメ



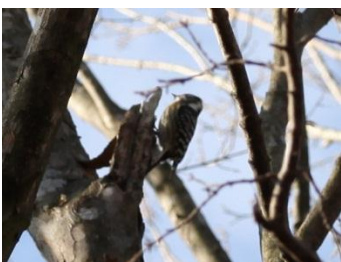
ホオジロの雄



ずんぐりむっくりイカル



柄が長いエナガ



木をつつくコゲラ



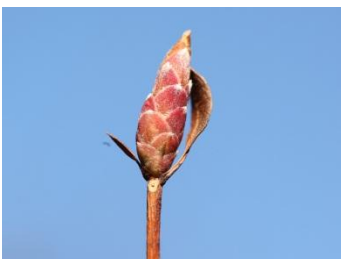
冬鳥の代表、ツグミ



白い点が特徴のモズの雄



ルリビタキのメス



ドウダンツツジの冬芽



ふかふかのコブシの冬芽



オニグルミの葉痕



クサギの冬芽と葉痕